総括質疑

９月７日、令和７年度の決算について、予算決算常任委員会の総括質疑が行われました。

湯新会・公明１人、紫翠会２人、政和会１人の４人が会派を代表して質疑を行い、令和７年度の各決算の内容についてただしました。

ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。





［湯新会・公明］
柏原 久寿 委員

■決算概況について

質疑 **令和７年度決算を総括し、特に成果を挙げた施策とその理由を伺う。**

答弁 成果の判断に当たっては、市民満足度調査の結果を評価の基準とした。満足度の上昇率が高く、大きな成果を挙げたと評価する施策は、「まちの動脈となる道路等の整備」、「計画的な土地利用と市街地整備の推進」、「保育・幼児教育の充実と放課後児童の健全育成」の３つである。

質疑 **財政構造の改革の取組について、どのように評価しているか伺う。**

答弁 ＫＰＩの達成状況や個別施策の進捗を踏まえ、おおむね計画どおり順調に進展していると評価している。令和７年度末の地方債残高は、令和元年度末からおおよそ６％縮減を図ることができた。また、経常的繰出金は、目標値である８・41億円以下を３年連続して達成している。

■生活バス路線運行対策事業について

質疑 **乗合タクシー利用者の状況からの評価と近年の利用状況の推移を伺う。**

答弁 令和７年度の年間利用者数は令和２年度と比較すると５年間で９・８％の減となっている。利用者の要望を取り入れ、見直しながら運行しているが、燃料価格や運転手の人件費コストの増加等に伴い、市の負担金は高止まりしている。

質疑 **乗合タクシーの現行の運行方式をどのように評価しているか。**

答弁 予約制は最小限のコストで運行できる一方、事前予約が必要で、急な外出に対応しづらいなど一長一短がある。利用者のニーズと公共交通としてのサービスレベルのバランスを図りながら、持続可能な交通体系について検討を進めていく。

■有害鳥獣対策事業について

質疑 **実施隊員の確保が課題であるが、さらなる支援策をどのように構築していくのか。**

答弁 銃砲所持許可及び狩猟免許の取得や更新等に要する費用の助成等を継続するとともに、県の狩猟免許等取得支援事業の活用を周知し、新規の担い手の確保に努めていく。また、研修会や想定訓練等により、知見と捕獲技術等に習熟した隊員の育成を図っていく。

■自主防災組織推進事業について

質疑 **自主防災組織への交付金の使途と、今後の支援として必要なニーズの把握はどのように行っているか伺う。**

答弁 主な使途は防災訓練、避難誘導看板の設置、防災士認定講習などとなる。ニーズの把握については、防災講話や防災訓練等を通じて、地域防災に関する課題や必要な支援の把握を行っている。また、防災士からの意見などを研修会の場などで聞いている。



市内の自主防災組織の活動の様子